

令和2年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	08	104550	文化財保護活用事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	03	文化財の保護と活用			
目的	文化財の保護と活用					
対象	市民、指定文化財(将来的に文化財として指定する価値があるものを含む)					
意図	文化財愛護の気持ちを育み、指定文化財の保護意識向上を図る。また魅力ある地域づくりのためにその周知を図る。					
事業概要	<p>文化財の保護 43,299千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財の調査と指定 花輪堤ハナショウブ群落の調査と保存管理 石鳩岡神楽・土沢神楽の映像記録作成 市指定文化財所有者への管理指導や修理費の補助 <p>文化財の活用 1,100千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財説明板や案内板の新規設置及び修繕 文化財調査報告書・花巻市史資料編の作成 <ul style="list-style-type: none"> 市が所有する文化財の適切な管理運営 文化財保存活用地域計画の作成 花巻城内伊藤家住宅の修復 旧小原家住宅の防火設備の設置 文化財セミナーや早池峰自然観察会等の開催 岩手県文化財愛護協会負担金 					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	文化財調査の件数	件	計画	5.00	5.00	
			実績	2.00	4.00	
2	文化財セミナー、自然観察会の開催件数	件	計画	3.00	3.00	
			実績	3.00	1.00	
3	説明板や案内板等の設置・改修件数	件	計画	6.00	6.00	
			実績	6.00	7.00	
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	この1年間に博物館等の市内の文化施設を訪れたり、文化財に関する講座・セミナー等に参加した市民の割合	%	目標	0.00	22.00	
			実績	0.00	9.60	
2	市内の文化財を6件以上知っている市民の割合	%	目標	50.00	50.00	
			実績	32.40	20.90	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析(成果指標を設定しない場合は、その理由を記載)		
<p>・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、博物館等施設が3月から5月末まで休館したことに加え、文化財に関する講座・セミナーを1回しか開催できなかったため、市内文化施設を利用したり、文化財に関する講座に参加した市民の割合が大きく減少したものと考えられる。</p> <p>・市民向け講座や、文化財説明板・案内板により、市内文化財の周知を図っているが、市民が日常的に文化財へ触れる機会が少ないこと。また新型コロナウイルス感染症の影響により、市民が文化財を見る機会も減ったことから、市内文化財を6件以上知っている市民の割合も同様に、減少したものと考える。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	<p>少子高齢化や社会情勢の変化に伴い、市民共有の財産である文化財を保護・活用する環境は厳しさを増している。文化財は人と人とを結び付け、地域の活性化や魅力あるまちづくりに貢献するものとして、行政がその絆を取り持つ役割を担う。</p>
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	<p>地域と連携を図りながら、文化財説明板の設置・修繕等を継続的に行うことで文化財の現状を把握でき、適切な保存に結び付けることができる。また、文化財ガイドブック等の効果的な活用により、さらに多くの市民の関心を引くことが期待される。</p>
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	<p>文化財は地域のシンボルであり、教育や観光振興においても大きな価値を有する。経費を削減した場合、文化財の適切な維持管理ができず、保存状態の悪化や散逸・滅失を招く恐れがある。また、地域の沈滞を招き、観光等に大きな損失を与えることが憂慮される。</p>
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	<p>適切な保護管理を行うことで、指定文化財が市民共有の財産としての価値を有する。所有者に対しては、管理や修繕に要する費用の一部を補助している。また所有者等と連携を図りながら、可能な限り公開・活用を図っている。</p>
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	<p>国重要文化財「旧小原家住宅」の防火設備等の整備、市指定有形文化財「花巻城内伊藤家住宅」の修復工事、花輪堤ハナショウブ群落の保存管理にかかる調査事業の実施等により、文化財の適切な保護と保存管理が図られた。</p> <p>また、国選択無形民俗文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」の映像記録作成事業へ着手したほか、文化財保存活用地域計画策定に向け、コミュニティ会議の協力をいただき、地域にある文化財的資源を把握した。さらに、史跡を巡る市民向け講座の開催、文化財説明板の設置等により、文化財の活用と普及を推進した。</p>
	次年度に向けて	<p>市所有指定文化財の修復事業を継続し、次年度は市指定有形文化財「熊谷家」の便所棟屋根修理を実施する。</p> <p>昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施回数を減らすこととなった、市民向け講座の実施について、市民への文化財への関心と理解を深めるため、新型コロナウイルス感染症対策を充分に行いながら実施する。</p> <p>また、指定文化財所有者の保存管理にかかる費用負担を軽減するため、補助対象の拡充(国県指定文化財も新たに対象)と、補助金額の増額(上限50万円 200万円)を行い、文化財の適切な保存を図ることとする。</p>

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	03	文化財の保護と活用			
目的	埋蔵文化財の保護					
対象	遺跡					
意図	地域の歴史を知る貴重な歴史遺産である遺跡を守る。					
事業概要	埋蔵文化財の保護 17,995千円 ・埋蔵文化財保護のための遺跡情報周知と保護措置（発掘調査・工事立会等）の実施 ・埋蔵文化財の記録保存調査の実施、市内遺跡の分布状況調査 ・花巻城跡内容確認調査の成果整理 埋蔵文化財の活用 3,941千円 ・埋蔵文化財・史跡等を活用した各種講座及び講演会・セミナーの開催 ・埋蔵文化財を活かした地域事業への協力 ・遺跡標柱の設置 ・総合文化財センターにおける埋蔵文化財の収蔵・展示 ・利活用に向けた資料の再整理及び展示・体験学習等の実施					
市民参加の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	埋蔵文化財保護制度を周知した回数	回	計画	5.00	3.00	
			実績	5.00	1.00	
2	各種講座・展示会等の開催	回	計画	6.00	6.00	
			実績	7.00	6.00	
3	遺跡標柱設置数	本	計画	10.00	5.00	
			実績	4.00	6.00	
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	保護された遺跡の件数	件	目標	80.00	80.00	
			実績	115.00	136.00	
2	埋蔵文化財関係講座等受講者数	人	目標	1,500.00	1,500.00	
			実績	2,596.00	661.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
・開発により破壊が免れない遺跡について記録保存調査を行うなど埋蔵文化財保護を徹底するとともに、保護措置を受けずに開発が実施されないよう埋蔵文化財保護制度の周知を図った。その結果、年間136件の遺跡保護件数となった。 ・地域の歴史を知る上で貴重な財産である「埋蔵文化財」への関心を高めるため、市民を対象とした各種講座、企画展、体験学習を開催したが、新型コロナウイルス感染症の影響により閉館や開催期間の変更が余儀なくされ、受講者数は目標を大幅に下回った。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	埋蔵文化財は国や地域の文化の成り立ちを明らかにする上で欠くことのできない国民共有の財産であり、地域の資産でもある。その保護と活用に努めることは、地方公共団体の任務として文化財保護法に規定されており、市の主体的な実施が必要である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	岩手県教育委員会との連携による県内開発業者への周知徹底を図るほか、建設部等庁内関係部署との情報共有により、保護活動を向上させる。また、埋蔵文化財資料等を活用した講座等を開催することにより市民意識を一層向上させることができる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	埋蔵文化財を正しく保護・活用するために、専門知識及び経験を有する職員の対応が必要であること、遺跡内での開発数は年度により増減することから、一定事業費及び人件費の確保が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	埋蔵文化財の保護による受益は、記録保存された遺跡の調査成果等を公開し、広く周知することにより、地域を知る財産として市民はもとより国民に及んでいることから公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	埋蔵文化財を保護・保存するため、保護制度の周知等を行うとともに、遺跡の発掘調査や工事立会等により埋蔵文化財の保存に努めた。企画展や講座等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止した講座や開催期間を短縮した企画展があるものの、開催により市民等へ埋蔵文化財等への興味関心を高めた。
	次年度に向けて	埋蔵文化財の保護・保存については、保護制度の周知に努めるとともに、必要に応じて発掘調査による記録保存を行う。企画展や講座等は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとり、その時々状況に応じて臨機応変に開催する。

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名
01	10	05	09	104590	展示活動事業費
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興
	施策	03	文化財の保護と活用		
目的	博物館事業の展示活動				
対象	市民				
意図	展覧会の開催により市民が普段目にする事が出来ない歴史的資料や美術作品を紹介し、花巻の歴史や文化財への興味と関心を高める。				
事業概要	資料の展示公開 7,968千円 特別展 美を競う 肉筆浮世絵の世界 《中止》 企画展 災害展 《中止》 テーマ展 花巻人形展～収蔵資料撰～ 前年度2/15～8/30 花巻の煌めく人と物 9/19～11/23 めでたい!花巻人形 2/13～翌年度4/4 共同展 小野寺周徳展 12/5～1/31 博物館資料の収集及び整理保管 372千円 調査研究 430千円				
市民参加の有無	対象外				
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成
活動指標		単位	区分	H31	R02
1	展覧会回数	回	計画	5.00	6.00
			実績	5.00	4.00
2			計画		
			実績		
3			計画		
			実績		
成果指標		単位	区分	H31	R02
1	博物館入館者数	人	目標	20,000.00	20,000.00
			実績	17,750.00	7,942.00
2			目標		
			実績		
3			目標		
			実績		
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり	
				目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、4、5月は休館となった。また、特別展・企画展については、県外へ調査や借り受けに行く必要があることから、延期とした。他方、開催できなかった特別展の期間に、花巻人形展～収蔵資料撰～を延長開催し、また、花巻の地域に特化したテーマ展・共同展に重きを置いて実施し、成果指標に掲げた入館者の目標数値へ近づけるよう努力した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	花巻市の考古・歴史・美術工芸各分野の貴重な資料を収集及び保管すること、そして調査研究によって資料の歴史的な価値を明らかにし、公開等を行うことで、市民の教育、学術及び文化の振興に寄与することが博物館の役割である。
	妥当である	
有効性	見直し余地がある	
	妥当でない	
効率性	成果の向上余地	展覧会は、学芸員の調査研究活動が十分に反映されたものとし、市民の知的好奇心に訴える資料の選定を行い、開催趣旨に沿った内容の充実に努めている。
	向上余地がある	
公平性	向上余地がない	
	事業費・人件費の削減余地	展覧会にかかる費用の積算にあたっては、展示資料の安全確保と魅力を最大限に伝えるディスプレイを行うため、コストバランスを十分に考慮し、事業費、人件費とも精査して適切な経費の執行に努めている。
総合評価	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
今年度の振り返り	どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	来館者に対しては周辺他館との共通入館券や、団体料金他各種割引料金を設定するなど、来館者の観覧事情や目的に配慮した価格設定としている。
次年度に向けて	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
適正である		
新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、特別展・企画展を延期とした。開催できなかった特別展の期間は花巻人形展～収蔵資料撰～を延長して開催し、また、花巻の地域に特化したテーマ展・共同展に重きを置いて実施した。市民の知的好奇心にこたえる魅力ある展覧会を開催するとともに、地域に根ざした博物館として、考古、歴史、美術工芸各分野の調査研究を進め、先人の英知や郷土の歴史と文化を学習する場としての充実を図った。		
新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、市民が花巻の歴史や文化財に親しみ、知的好奇心に応える魅力ある展覧会を開催していく。また、さらなる学習意欲の向上や興味関心の呼び起こしに努め、理解を深める博物館講座等で学習の場を提供していく。また、考古、歴史、美術工芸各分野の調査研究を進め、先人の英知や郷土の歴史と文化を学習する場として充実を図ることで、地域に根ざした博物館を目指す。		

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	10	05	09	104600	教育普及活動事業費		
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興		
	施策	03	文化財の保護と活用				
目的	博物館事業の教育普及活動						
対象	市民、児童・生徒、教師						
意図	ふるさとの歴史や文化への興味と関心が深まり郷土を愛する心が養われる。						
事業概要	教育普及活動事業 2,122千円 博物館と学校教育の連携による調査・研究 体験学習・各種講座の開催						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	H31	R02	R03
1	講座回数	回	計画	40.00	40.00		
			実績	70.00	37.00		
2	体験学習開催回数	回	計画	9.00	9.00		
			実績	16.00	1.00		
3			計画				
			実績				
成果指標			単位	区分	H31	R02	R03
1	講座受講者数	人	目標	2,000.00	2,000.00		
			実績	2,405.00	2,060.00		
2	体験学習受講者数	人	目標	450.00	450.00		
			実績	420.00	50.00		
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
2年度成果指標の達成度 講座受講者数 計37回 2,060人 （内訳）館長講座 1回 6人 出前授業等 1,121人 修学旅行等見学 933人 体験学習受講者数 計3回 50人 （内訳）こはく玉づくり 1回 19人 花巻人形絵付体験 1回 15人 花巻人形写真会 1回 16人 講座について、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に留意し実施した。展示室で解説すると閲覧しようと集まり密になるため、講座室で解説してから自由見学とする等工夫したので、目標値を上回ったと考えられる。 体験学習について、密室で行わざるを得ず感染防止に不安があったため原則行わなかった。たつての希望のあった小学校のこはく玉づくり体験学習、花巻人形写真会、及び、教育長から許可を得て開催した花巻人形絵付け体験について、感染予防対策を徹底して実施した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	博物館と小・中学校とが連携することで、郷土の歴史や文化に対する興味関心を高め、深い理解へと導くことで、地域を大切にすることを育む。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	博物館所蔵資料を念頭に、各種講座や体験学習において、受講者のニーズや時代に即応した内容を考えることで充実を図っている。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	講座・体験学習とも地域の文化に即した内容であり、専門的な知識や技術を有した人材が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	講座・体験学習とも基本的に受講や参加に制限はなく、費用についても実費となる材料費のみの負担である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため当初は講座・体験等をすべて中止にしていたが、教育長より実施してよいとの指示が出た6月以降、感染拡大防止対策を徹底した上で出前授業・見学等を受け入れた。 講座や体験学習を通じて、花巻の歴史や文化の知識を深めるだけでなく、受講者自らが歴史の語り手となり文化の継承者として、積極的に活動できるよう支援した。 博物館と小中学校との連携については、博物館でのワークシートを活用した見学や、実際に各校におもむき出前授業を行うことで、親しみのもてる歴史や文化の学習を提供した。 学習メニューの作成は、各校の担当教諭と連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性を盛り込んだ内容とすることで興味や関心を高めるように工夫した。
	次年度に向けて	新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、次のことに留意して事業を実施する。 講座や体験学習、博物館と小中学校の連携事業の開催にあたっては、ワークシートを活用し、密にならない博物館見学の推奨と、各校の担当教諭との連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性を盛り込んだ内容とすることで、興味や関心を高めるようにしていく。